

まちづくり

■再生可能エネルギーを使用した、環境配慮型コミュニティの提案

・戸々の住宅には、太陽光発電・蓄電池・LPガスエネファーム等活用し、環境配慮型住宅を目指します。**(HEMSの活用)**

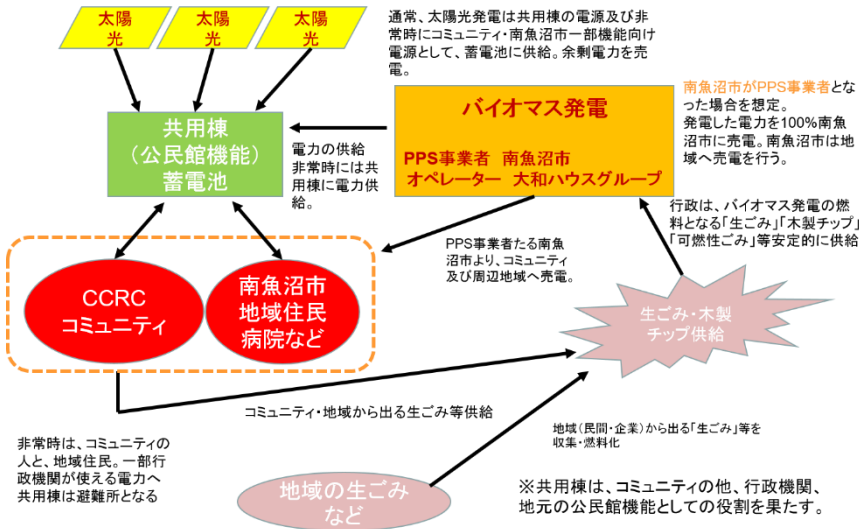
・賃貸棟にも太陽光発電と蓄電池を備え、発電した電気は各住戸に配分を行います。また、エコキュートなど環境にやさしい賃貸住宅を整備することで、エコ思考の強い移住希望者を募ることが目的です。(光熱費の削減等移住者のライフプランにも寄与できます。)

・共用棟(コミュニケーション棟)には、大型の太陽光パネル・大型蓄電池を活用し、再生可能エネルギーを使用した行政施設を目指します。
電力自給による、電力供給で地域の防災拠点としての活用を行います。

■バイオマス発電の可能性の提案

・コミュニティ及び地域(地域住民から出る生ごみ・地元企業から出るごみなど)を利用してバイオマス発電を提案します。

南魚沼市が「PPS事業者」となり、バイオマス発電から生まれる電力を100%購入。購入した電気はコミュニティや地域住民へ、他基幹病院等への売電を行い、**電気の地産地消**を提案します。また、そこから生まれる「お湯」「肥料」「二酸化炭素」などをビニルハウスなどに取り込み、地元野菜などの農業支援が可能です。移住者の農業分野における支援などと併せて、地元企業や地元スーパーがこの野菜を販売することで**循環型地産地消**を可能とします。(移住者向けの農業支援)



案: バイオマス発電事業者→大和ハウスグループ
バイオマス発電資産保有会社→大和ハウスグループ(発電電力を100%電力業者に売電できた場合)

■共存共栄 移住者と地域住民が交流できるまちづくりの提案

・共用棟の整備を、「まちづくりの土台」を作る位置づけとして起業家を迎えることにより、将来のCCRC候補地域、及び南魚沼地区全体の交流を促せる環境が出来ると考えます。

・移住者と地域の人々を繋ぐことは、今後のCCRCを進めてゆく上でとても重要なポイントと考え、将来の「CCRCを見据えたまちづくり」を充実させることにより、**【移住希望者が(移住したい)】**と思われる「まちづくり」の実現を考えます。

・地元食材を利用したお洒落なレストラン・カフェ等、移住者・地域住民の皆さんがくつろげる空間「交流できる拠点」を整備します。

・地元経済の地産地消を進めることにより、地元経済が潤い、移住者の雇用に関しても十分寄与でき、また地元食材や地元雇用等地産地消の観点からも重要と考えます。



地域外も含めた「共用棟」の整備

- ※市民ギャラリー
- ※ボランティア活動支援施設
- ※多世代交流コミュニティ

多世代交流コミュニティの機能

- ①子育て支援
- ②カフェ
- ③健康支援
- ④見守り
- ⑤生活相談
- ⑥多世代交流



※共用棟(コミュニケーション棟イメージ)
移住者及び地元の方々が触れ合える場所。また、公共施設機能として、「住民相談窓口」等設け、行政と市民(移住者)が気軽に触れ合える場所を設けます。